SHINRAN 750th

「いただこう　あわせる　掌（て）のぬくもりを」

御遠忌通信

第５号

あかり　とも

発行日　2018年9月1日
責任者　宮尾　隆造
編　集　御遠忌実行委員会
連絡先　長浜教務所

〒526-0059
長浜市元浜町32番4号

TEL　0749-62-0737
FAX　0749-62-0754

得体の知れない「みんな」

儀式部部長　澤面　宣了

いよいよ明年、長浜教区・五村別院・長浜別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を迎えることになりました。御遠忌というものは親鸞聖人お一人をほめ、たたえる、おまつりではありません。七百五十年…それは親鸞聖人の教えに生きてこられた無数の「真宗門徒」の歴史です。

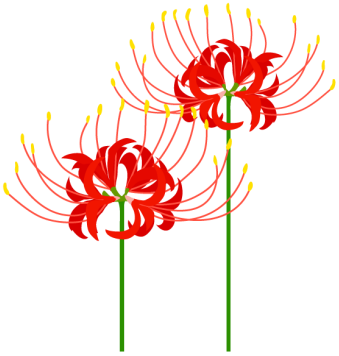
『真宗門徒になるための本』（大垣教区出版委員会発行）の中に「真宗門徒とは、日や方角の善し悪しなどの物忌みはしません」とあります。しかしよくよく考えてみれば、その言葉が表現するものは、世間にある迷信にとらわれないということだけの話ではなく、その体質はずばり得体の知れない「みんな」というものに合わせる生き方を問いなおすということではないでしょうか。

確かにわたしたちは「みんな」の中にいると安心ですし、そんな「みんな」に極めて弱いように思います。しかし、そのように生きることによって、実に様々な罪を作っているのではないでしょうか。子どものいじめ問題から差別問題にいたるまで、それを温存し助長するのは、いつも「みんな」にやすやすと従う者なのです。

よき日の為めに
芽から花を出し
大空から
日輪を出す
歓喜よ

これは一九二二（大正十一）年三月三日、差別の現実から立ちあがった全国水平社創立趣意書の言葉です。ここにあるようにこの運動に願われているのは、ただ人間として生きるよろこびを感じることのできる…そんな「よき日」を求めているだけなのです。それは逆に差別によって、いかにその人間性が踏みにじられ、「よき日」が奪われてきたかということです。そしてまたそのような差別社会を作りあげてきたのは他でもない「みんな」にやすやすと従う者なのです。

「真宗門徒とは、日や方角の善し悪しなどの物忌みはしません」それは、自分で考え、「みんな」に流されない生き方です。社会から差別され、抑圧され、しいたげられてきた「いし・かわら・つぶてのごとくなる」人たちを「われら」とおっしゃった親鸞聖人。長浜教区・五村別院・長浜別院　宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌に今一度それぞれが自問すべきではないでしょうか。私は「真宗門徒」なのかと。



御遠忌テーマ　「今、いのちがあなたを生きている」
御遠忌スローガン　「いただこう　あわせる　掌のぬくもりを」

御遠忌
ごきげん
ワークショップ

横超楽園（おうちょうランド）

横超楽園とは？

御遠忌ごきげんワークショップ

二〇一九年五月十～十二日（五村別院）、五月十七～十九日（長浜別院）にお勤めされる真宗大谷派長浜教区・五村別院・長浜別院宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌のお待ち受け助成事業「御遠忌ごきげんワークショップ」として広開（広開浄土門より）されます。主催は真宗大谷派長浜教区敦賀組西法中です。

仏教に導かれて生きる―出あいを学ぶ―

参加者一人ひとりが、仏教に導かれて生きる（考え行動する）人間になることが開園目的です。一般的な仏教イメージ（静かな悟りの心境を得る？）を捨ててご参加下さい。

衆会―心をほどく対話・交流―

宗派・教区／職業／年齢／性別…様々な差異を超えて対話・交流する場を開きます。現実の具体的な出来事に立ち止まり、語り合うことを通して、人（他者）に出あい、新たな自分に出あいましょう。

歴史観を開く―自分の背景を知る―

人間に深く浸みこんでいる歴史的迷いにスポットを当てます。今回テーマとするのは、明治維新以降の「近代化」。自分の背景となっている悲しみの歴史と出あい、未来への確かな道を踏み出しましょう。

出世間―タテからヨコへ―

強く大きく立派な国（富国強兵）を求める中心だった軍隊。その絶対的な上下関係は、今日、スポーツや企業など様々な組織に引きつがれていませんか。他者を傷つけても自分の立場を守ろうとするタテ世界の呪縛（自力の心）から心がほどける「時」、ヨコ世界（〈いのち〉の楽園）が響きわたります。

衆会（しゅうえ）日程

統一テーマ
明治維新百五十年。日本の近代化から問われる私たち

講師：長田浩昭（おさだひろあき）さん
真宗大谷派京都教区法傳寺住職
二〇一四年度長浜教区同朋大会講師／同朋会館教導

第一衆会　二〇一八年十一月二十五日（日）
会場：隆法寺（古田刈）十三時半～十八時（受付十三時）
講題：日本の近代化と信教の自由

第二衆会　二〇一九年三月二十四日（日）
会場：西徳寺（疋田）十三時半～十八時（受付十三時）
講題：日本の近代化と国家（人々）の行方

第三衆会　二〇一九年六月三十日（日）
会場：量泉寺（金山）十三時半～十八時（受付十三時）
講題：日本の近代化と浄土の喪失

聖教学習会　二〇一九年四月二十九日（月）
講師：藤場俊基（ふじばとしき）さん
真宗大谷派金沢教区常讃寺住職
会場：西雲寺（堂）十三時半～十七時（受付十三時）
講題：真宗の歴史観（横超他力に遇う）

参加費用と申込方法

各回　五百円（資料代として）
事務局（西誓寺）までご連絡ください。
［携帯電話：090-8263-3864］

「御遠忌　ごきげん　ワークショップ」は御遠忌の趣旨に賛同の上、様々な活動を企画し実施いただく団体を募集しました。応募団体の中から選考の上、一定の助成をするもので、助成対象となる事業は御遠忌の願い「生きる力を伝える」に則した多様な活動を行っていきます。
「御遠忌　ごきげん　ワークショップ」を契機として、真宗門徒の皆さんはもとより、宗派を越えて地域の方々との交流を深めてまいりましょう。

長浜教区・五村別院・長浜別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
«五村別院　2019年5月10日（金）～12日（日）»
«長浜別院　2019年5月17日（金）～19日（日）»

1246年（74歳）　親鸞、『唯信鈔』、『自力他力事』を書写。
1247年（75歳）　尊蓮、『教行信証』を書写。

御遠忌フォト発見

第19組　正福寺住職　笹原　弘正

どこかに五十年前の御遠忌の写真が・・・？　そんな記憶が私の頭の中をよぎりました。家の中を探しまわって、やっとそれらしき写真を数枚発見！　昔の写真ですから日付など入ってはいません。母にたしかめたら、たしかに五十年前の五村別院の御遠忌だと。

一枚は、献灯献花のようです。場所は五村別院の本堂と広間をつなぐ太鼓橋。先頭を歩くのが若かりし母です。みなさん留袖。正装です。

さて、もう一枚は、御遠忌にお参りをされていたご門徒の女性の方々です。なんとこの中に母に抱かれている私？（弟かもしれません）が写っていました。写っている女性の方々は、私の母と叔母を除いて、みなさんお浄土へと帰っておられる方々ばかりです。

一人一人の顔を確かめていると、幼き時からお世話になった思い出がよみがえってきました。このおばあちゃんは、お夕事によく参ってこられたなあ。このおばあちゃんは、とっても明るくにぎやかだったなあ。このおばあちゃんは，私が高校に合格した時、自分の子どものようによろこんでくださったなあ。

私にこの写真の記憶は、全くありません。

でもきっと、私の誕生をともによろこび、そしてあたたかく育ててきてくださったに違いありません。私の記憶の前から私は、大きな、そして多くの御手の中にあったのです。ふだんは忘れてしまっている大切なことを思い出させてくれたすてきな一枚の写真となりました。

さて、御遠忌を来年に控えて、自分がお参りすることばかり考えていましたが、この写真のおかげで、息子夫婦を連れて、孫を連れて、そしてご門徒のみなさんを誘ってお参りしたいなあと思いました。そして、すてきな記念写真が撮れたらいいなと・・・！

きっと、五十年後その写真をだれかが見てくださり、御遠忌と御遠忌がまたつながっていけばいいなあと思います。

『手作りの勤行本』

第19組　准願寺住職　冨永　法成

「お内仏の整理をしていたら、こんな古い物が出てきたので。」と言われて渡された手作りの勤行本。明治の終わり百十年前の物です。中を見ると丁寧に筆書きされており、和讃を見ると報恩講用の勤行本。「正信偈真四句目下　五淘・八淘」とあり、当時、ご門徒の方々が報恩講用の勤行本を書き写し、お勤めの稽古をされて、報恩講を勤められた。報恩講の結願のお勤めが終わりますと、「豆腐田楽で一杯」慰労をされたと先代に聞いたことがありました。

「明治四拾壱年拾弐月　小﨑」と書かれた勤行本

そういう先達が五十年に一度の御遠忌にお参りされている宗祖親鸞聖人六百五十回御遠忌の写真（本山『大遠忌記念帖』・別院）を見せて頂いたことがあり、御遠忌に参集されている出仕僧侶・ご門徒さんの多さにびっくり、境内には人、人ばかりです。その大遠忌記念帖（本山）には変わった賽銭箱「賽銭桶」が写っており、容積

〈裏面に続く〉

1247年（75歳）　親鸞、『浄土和讃』・『高僧和讃』を作る。
1250年（78歳）　親鸞、『唯信鈔文意』を著わす。

十一石一斗八升の大樽が賽銭入れとして四カ所に設置されたとか。どれだけの人がお参りされたのか？（因に当時の日本の人口は五千万人、現代の半分以下です。）そういう大樽が必要な参拝者だったのか？　ちょっと不思議な人の熱を感じました。諸事情はあっても法縁を大切に選ばれ、お参りされていたことを感じます。

賽銭桶

　それではいま私はどうなのか？　宗祖のお言葉を書写することもなし、尋ねることもなし、法座へお参りするでなし、時代が違う環境が違う価値観が違う選択肢が多いと云って正当化したい私がいる。そのような私を掘り起こして頂く五十年に一度の稀縁に恵まれました。言葉を尽くし、労を尽くし来春に向けて準備くださる方々と共に、この私も法縁を創り喜ぶエネルギーを宗祖親鸞聖人の御遠忌から頂きたいと思います。

　十五年前の長浜教区蓮如上人五百回御遠忌の時も、事前に仲間と何度も何度も繰り返し繰り返し、ご法要のための稽古をして出仕させて頂きました。宗祖のお言葉の響きを、ご門徒の方々と一緒の厳かにして大きな声でお勤めできた喜びが、大切な思い出となっています。

　この度の宗祖親鸞聖人の御遠忌を「私の掘り起こしお勤め」として、ご門徒の方々と御一緒にお勤めしたいと願っています。

あかりとも・御遠忌ロゴ　ピンバッジについて

　ピンバッジを各寺院に一つずつ見本として配布いたしました。輪袈裟や肩衣、服や帽子、カバンなどに付けて御遠忌を盛り上げていきましょう。

　長浜教務所にて下記のとおり販売中です。

２００円

４００円

御遠忌実行委員会からのお知らせ

御遠忌特別懇志について

　現在、御遠忌特別懇志をお願いしております。10万円以上、御進納された御寺院へは、記念品として「御遠忌記念五条袈裟」をお渡しさせていただきます。申請期間は、二〇一八年度（二〇一九年六月三十日）までとなっております。ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

※二〇一八年八月末現在収納状況
６１６万円（61件）

ごきげんワークショップ「親鸞さまと今福寺の時代」の予定が決まりました

第三回　十月　二十日（土）十三時半から十五時
会　場　稱揚寺（米原市番場）
講演「中世戦国時代の今福寺を求めて」
講師　丸山竜平氏（元名古屋女子大学教授）

第四回　十一月十八日（日）十三時半から十五時
会場　稱揚寺（米原市番場）
講師　江竜喜之氏（元長浜城歴史博物館館長）

第五回　三月十七日（日）十三時半から十五時
会場　稱揚寺（米原市番場）
講師　丸山竜平氏

第１回目の様子

第２回目の様子

教区内の皆様より掲載記事を広く募集しています。教務所（担当　内麻）までご一報いただければ取材に伺います。